

トピック — コンビニエンスストアにおけるカット野菜の消費動向 —

当機構では、需要が堅調なカット野菜（簡便野菜（キャベツ等の千切り）、鍋物セット、カップサラダ、ボテトサラダ）の消費動向調査（Web調査）を平成24年度から実施している。今回は、そのうち、コンビニエンスストアにおける簡便野菜の最近の特徴を紹介する。

消費者の購入先（複数回答）でみると、コンビニエンスストア（平成26年：40.3%）は、スーパー・マーケット・生協等（同93.2%）に次ぐ店舗となっており、毎年、その割合は増加傾向にある。

また、年齢別に購入した者の割合をみると、20～29歳層で最も高くなっているが、最近では、40～49歳層、50～59歳層の割合が着実に増加しており、購買層の中壮年層への広がりがうかがわれる。

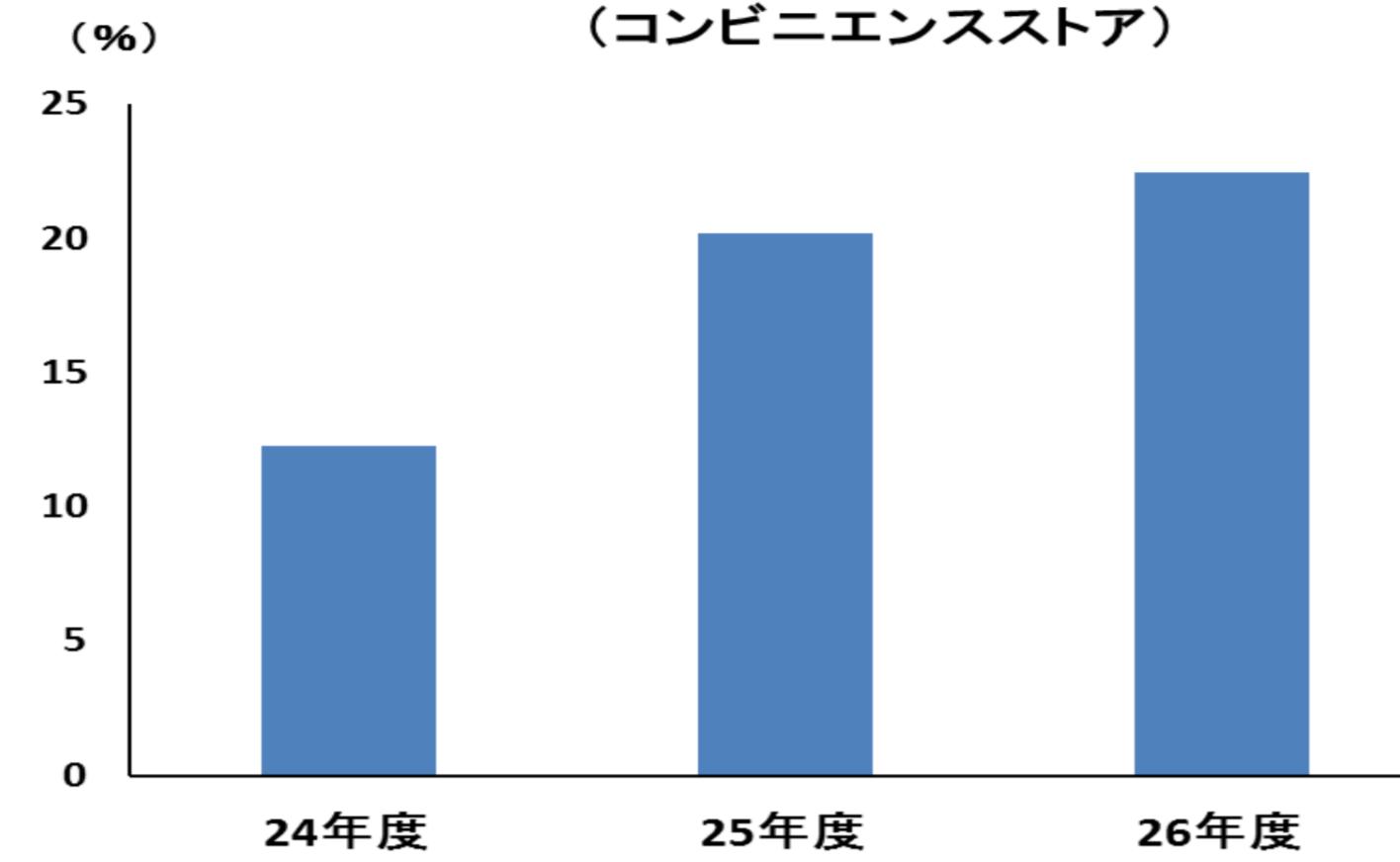
さらに、世帯属性別に購入した者の割合をみると、男女とも独身・単身世帯の割合が高くなっているが、最近では専業主婦女性の割合が増加しており、共働き世帯よりも高くなっている。

このうち、専業主婦女性がコンビニエンスストアで購入する理由をみると、「家庭での調理時間を節約できるから」が増加傾向で75.0%（平成26年）と最も高く、全世帯計の（同：68.1%）よりも高いという特徴がみられる。このほか、「好きなものを選んで購入できるから」も増加傾向にある。

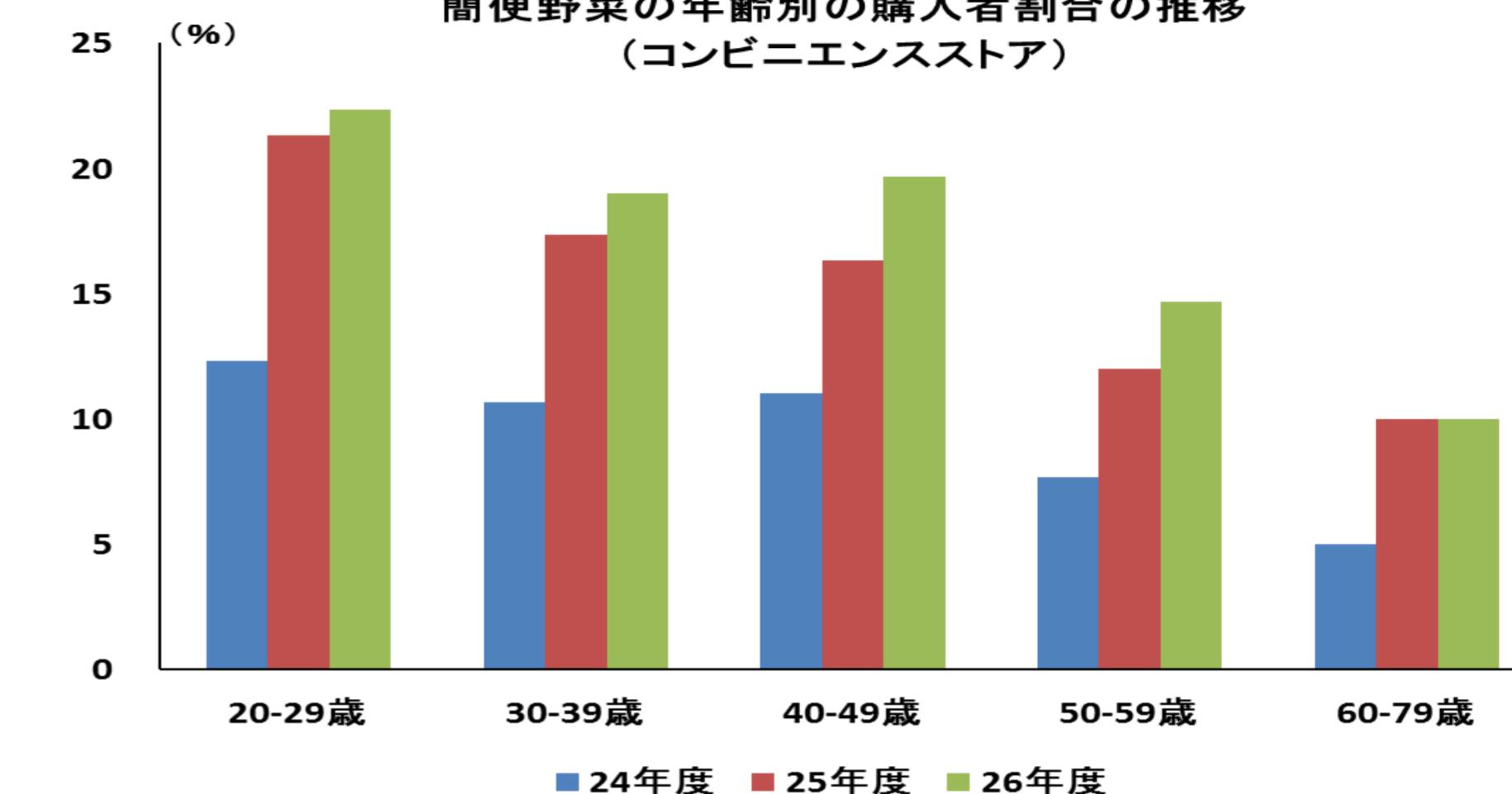
このように、コンビニエンスストアでは、店舗数の増加や、生鮮品を中心とする品揃えの充実もあり、カット野菜の購入層が、従来の若者や共働き世帯から、中壮年層や専業主婦層にも着実に広がりつつある傾向がみられる。

今後とも核家族化の進展や共働き世帯、単身世帯の増加等に伴い、カット野菜の需要先として、コンビニエンスストア向けの割合が徐々に高まることが考えられる。

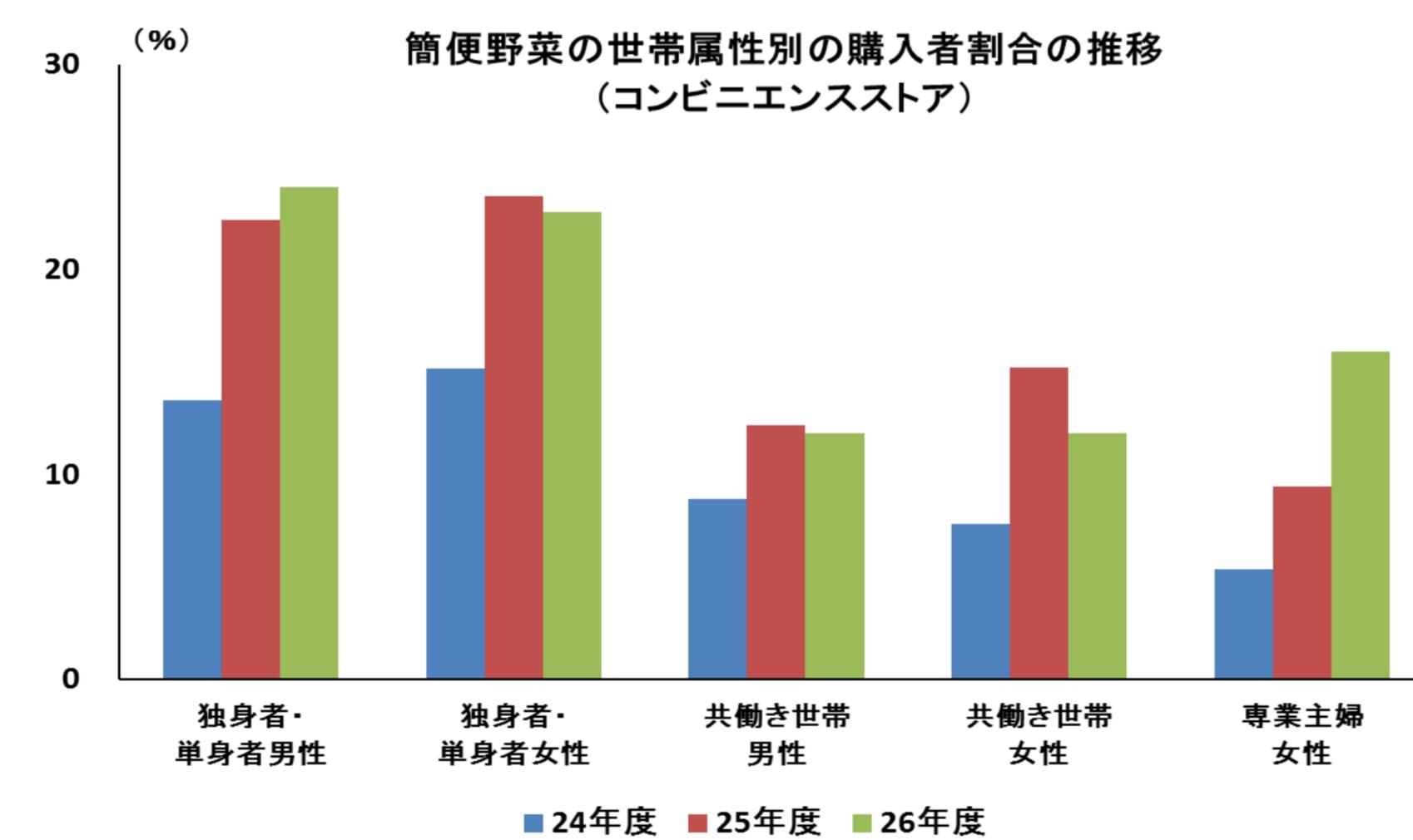
簡便野菜の購入先の推移（複数回答、以下同じ）
(コンビニエンスストア)



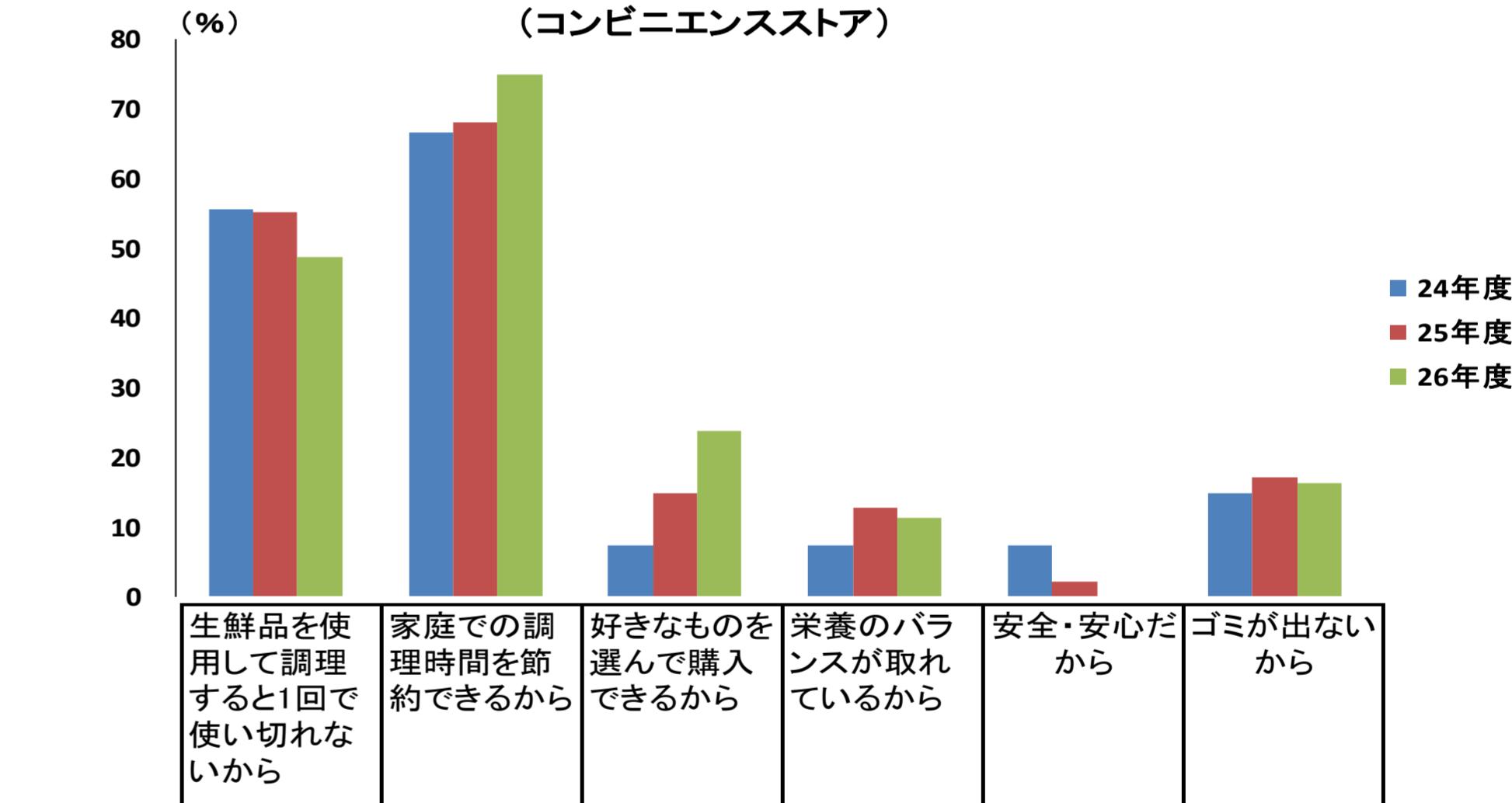
簡便野菜の年齢別の購入者割合の推移
(コンビニエンスストア)



簡便野菜の世帯属性別の購入者割合の推移
(コンビニエンスストア)



専業主婦女性が簡便野菜を購入する理由
(コンビニエンスストア)



●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 前川、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はページのトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。